

学校教育目標	豊かな心を持ち たくましく生きる生徒
目指す学校像	○安全かつ安心して学び自己実現を目指す学校 ○教職員が協働し、共に学び合う学校 ○保護者・地域と共に歩む開かれた学校

重点目標	1 デジタル学習基盤を活用した授業改善及び学習者主体の学びの推進 2 誰一人取り残さない発達支持的生徒指導と相談体制の充実 3 学校運営協議会 (CS) を核とした地域と共に歩む開かれた学校づくりの推進 4 生徒が安全・安心に過ごせる環境の整備、及び利便性の高い教育環境の充実 5 業務の効率化と専門性の向上による教職員の幸せ (Well-being) の実現
------	--

※重点目標は6つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

		学校自己評価				学校運営協議会による評価		
		年度目標		年度評価		実施日 令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	□現状 ・学校は全体的に落ち着いており、生徒は授業規律を守り概ね真面目に学習に取り組んでいる。 ・学習状況調査では、多くの教科で市平均や全国平均を上回る、あるいは同等の正答率を示しており、基礎的・基本的な「知識・技能」の定着状況は比較的良好である。 □課題 ・複数の情報を関連付けて読み解く力や、自らの考えを論理的に記述する「思考力・判断力・表現力」に伸びしろが残されている。 ・デジタル学習基盤を活用した、学習者主体の授業への転換が求められている。 ・学校の授業において、タブレットを日常的に学びに活用している生徒の割合が市平均と比べ 12 ポイント程度低い。	・デジタル学習基盤を活用した授業改善 ・学習者主体の学びの推進	① 朝の時間にスタディサプリ等に主体的に取り組んだり、タイピングを練習したりする時間を設定し、自ら学ぶ力を高める。 ② クラウド上で学びの「振り返り」を実施し、生徒が自己の課題を把握したり、学びを調整したりできるようにする。 ③ 授業における生成AI活用について研究を行い、生徒の主体的な学びのツールとして活用できるようにする。	●市学習状況調査における設問「タブレット使用頻度」において、「ほぼ毎日」と回答した生徒の割合が60%以上であったか(R7:49.6)。 ●「学びの指標」アンケートの「ICT活用」に関する評価の平均値が 3.2 以上であったか (R7:3.05)。 ●学校評価アンケート (生徒) 「授業は楽しく分かりやすいですか」の肯定的回答が94%以上であったか (R7:93.2%)。				
2	□現状 ・市学習状況調査での設問「学校に行くのが楽しい」に肯定的な回答をした生徒の割合が市平均を上回り良好な状況である。 ・学校評価アンケート (保護者) における設問「生徒をよく理解し一人ひとりを大切に伸ばそうとしている。」では、肯定的な回答が8割を超えている。 □課題 ・様々な課題等について、生徒一人ひとりに寄り添った発達支持的な生徒指導や支援の充実が必要である。 ・SoLa ら一むや相談室を利用している生徒一人ひとりに応じた学習環境整備が必要である。	・生徒一人ひとりに寄り添った発達支持的な生徒指導や教育相談の一層の充実	① スクールダッシュボード等の教育データ、担任との「やりとり帳」等を用いた個々の生徒の状況把握と情報共有を徹底する。 ② 週1回の生徒指導委員会、教育相談部会において、生徒の状況を丁寧に把握し、迅速かつ組織的な対応を行う。 ③ さわやか相談室、SoLa ら一むにおける教職員の支援体制や、オンラインを含めた効果的な学習方法について検討を進める。 ④ SC・SSWをはじめとする専門職や関係機関との連携を強化する。	●学校評価アンケート (保護者) における設問「生徒をよく理解し一人ひとりを大切に伸ばそうとしている。」の肯定的回答が昨年度以上であったか (R7:82.8%)。 ●学校評価アンケート (生徒) における設問「先生は悩みや相談に、親身になって応じてくれていると思いますか。」の肯定的回答が昨年度以上であったか (R7:94.9%)。 ●市学習状況調査の設問「学校に行くのが楽しい」に肯定的な回答をした生徒の割合が昨年度以上であったか (R7:92.3%)。				
3	□現状 ・学校運営協議会における熟議が充実してきており、目指す生徒像や地域で協働できることについて、認識を共有することができた。 ・市学習状況調査の設問「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」に肯定的な回答をした生徒の割合が市平均を上回り良好な状況である。 □課題 ・生徒と地域が繋がる場を広げ、地域と協働して尾間木地区の魅力を生かした教育の実践が必要である。 ・地域との連携にあたって、教職員の働き方改革との両立が課題である。 ・学校運営協議会に生徒が参画したり、地域と生徒が意見交換をしったりする場を作る必要がある。	・学校運営協議会との連携 ・家庭・地域との協働による学校行事やイベントの実施	① 学校運営協議会委員に民間人材を新たに招聘し、これからの社会を生きる子どもたちに育成すべき資質・能力や、そのための教育のあり方について熟議を行う。 ② 学校運営協議会に代表生徒が参画し、学校生活や学習活動のあり方について意見表明できる場を設けることで、生徒の主体的な活動を促す。	●学校評価アンケート (保護者) における設問「学校は地域や保護者の願いを受けて、前向きに取り組んでいる。」の肯定的回答が昨年度以上であったか (R7:89.0%)。				
4	□現状 ・備品点検及び予算の適切な執行等により、施設は概ね整っている。 ・学校評価アンケート (保護者) における設問「学校は、よく環境整備がされてきてきれいである。」では、肯定的な回答が9割を超えている。 □課題 ・これまで学習者用タブレットの端末管理及び修繕管理が徹底されておらず、生徒の学習に支障が出ることがあった。 ・今後の改修を見通した、持続可能な教育環境整備、施設管理の在り方を検討する必要がある。	・利便性の高い教育環境整備の実施 ・学校施設の安全管理と適切な修繕の実施	① 学校DX推進部を中心に、端末と生徒の紐付け、機器管理、修繕申請管理を徹底し、1人1台端末環境を維持することで、生徒の学習機会を保障する。 ② 個別最適な学びの実現に重点を置いた予算編成、予算執行を実施する。	●市学習状況調査における質問項目「タブレット使用頻度」において、「ほぼ毎日」と回答した生徒の割合が60%以上であったか (R7:49.6%)。				
5	□現状 ・デジタル学習基盤を活用した学び方及び教え方改革について、学年・教科間での共通理解が十分でない。 ・ストレスチェック集団分析結果「仕事の量的負担・仕事のコントロール」*リスク値 R7: 男性 105、女性 94。 *ストレスチェックの結果から健康リスクの程度を数値化した指標。全国平均を100とし、数値が高いほどストレスが高い状態を表す。 □課題 ・学年主任や教務主任として全体を見ることができるよう教員の育成が急務。 ・教師が教える授業から生徒が主体的に学ぶ授業への転換が求められている。 ・業務の効率化並びに教職員の負担軽減を図るための具体的な方策を講じる必要がある。	・専門性の向上 ・教職員が情熱をもって生徒と向き合える「Well-beingな職場」の実現	① 学び方・教え方改革に資する研修受講奨励の実施と進捗の確認・見届けを行う。 ② 教科指導や生徒対応の基礎事項を早期に身に付けさせるため、初任から3年以内の教員の授業等参観と指導助言を実施する。	●「学びの指標」アンケートの「主体的な学び」及び「ICTの活用」に関する評価の平均値が昨年度以上であったか (R7:主体的・3.32、ICT・3.05)。				
			① クラウドサービスやAI等のICT活用及びデジタル技術による業務フローの見直し等により更なる業務の効率化を図る。 ② 働き方改革マスタープランに基づき、月1回定時退勤日を設定し実施する。 ③ 在校時間管理の徹底と、管理職との面談による相談の充実。	●「教員等の勤務に関する意識調査」における負担感・多忙感を感じている割合が90%以下であったか (R7:100%)。 ●ストレスチェック集団分析結果「仕事の量的負担・仕事のコントロール」リスク値：(昨年度値：男性 105、女性 94 → 今年度目標：男女ともに95以下)				

学校運営協議会による評価	
実施日 令和 年 月 日	
学校運営協議会からの意見・要望・評価等	